

授業科目名	簿記を基本から学ぶ	科目コード	配当年次	単位
担当教員	上野 孝子	HH81	1	2
科目の概要				
<p>会社員として企業に所属している人も、独立している人も区別なく、誰もがビジネスに関わり、その結果として「お金」という収入を得て生活している。簿記はその「お金」を得るためのビジネスの取引をシンプルに数字で示す共通の言葉である。その意味で簿記は「お金」についての最も基本的な知識といえる。本科目は、初めて簿記を学ぶ人を対象とし、簿記の基本的な骨組みを徹底的に学ぶことで、経営者の視点を身に付け、ビジネスの世界をより深く理解できるようになることを目指す。また、日商簿記検定3級の資格取得を目指す方に向けた、「3級入門」の役割を担う科目でもある。</p>				
科目の到達目標				
<p>①取引を2つの側面から捉える複式簿記の特徴を理解し、基本的な取引の仕訳（取引をシンプルに示す簿記上の表現）が作成できる。</p> <p>②複式簿記の一連の流れを把握し、実践できる。具体的には仕訳から総勘定元帳（「現金」などの各項目の明細）へ転記ができ、総勘定元帳から試算表（「現金」などの各項目の残高一覧表）を作成できる。</p> <p>③貸借対照表と損益計算書の特徴を理解し、試算表からこれらを作成できる。</p>				
テキスト	『はじめての人の簿記入門塾』浜田 勝義, かんき出版, 2005年			
テキストの読み方				
<p>①テキストのプロローグ・PART1・PART2では、簿記の最も基本的な骨組みについて詳細に記述されている。まずは細かな枝葉をあまり気にせず、ここまで一気に読み進める。</p> <p>②PART3・PART4では、簿記の実践としての仕訳について記述されている。PART3では仕訳のルールが、PART4では具体的な仕訳例が多数盛り込まれている。分からないときは必要に応じてPART1・PART2に戻って確かめながら読み進めるが、PART3を読んでからなるべく時間をおかずにPART4を読み、実際に手を動かして仕訳を作成するのが効率的である。</p> <p>③仕訳がある程度できるようになってきたら、決算・財務諸表の作成を扱う最後のPART5を読む。</p> <p>※練習問題は必ず解き、できるようにしておくこと。</p>				
単位修得の方法				
<p>①レポート課題を提出し、60点以上であれば合格となり、科目修得試験を受験できる。科目修得試験の得点が60点以上であれば合格となり、評価が確定し、2単位を修得できる。</p> <p>または、</p> <p>②スクーリングを受講し、合格すれば2単位を修得できる。この場合、レポート課題の提出と科目修得試験の受験は不要。</p>				